STOCK RE-ONSTAGE

変換力を活用した新古材循環建築

持ち込まれた古材は競りによって表現者に渡される

解体古材と新材を組み合わせて、新たな賑わいの場をつくる

夜景：駅側から見る　ボックスが人の活動を象徴する

ボックスはまちと繋がり、フロアの奥まで光を届ける

ボックスに境界がないため、制作・展示の過程がよく見える

00 future image

新古材が循環する池袋へ

池袋を含む豊島区の特徴は、「木密地域」である。その木密の良さを残しつつ、持続可能な池袋の未来に向けて「まちの古材」を循環させる仕組みを開発する。様々な歴史の詰まった古材が至る所に現れることで、「材の履歴」が溢れる池袋を目指す。合わせて森の循環も取り入れ、大きな循環サイクルを作る。

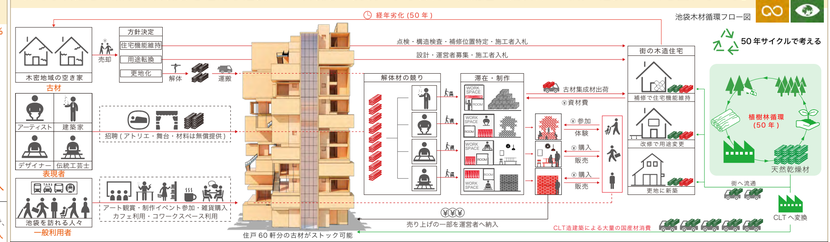
01 background + purpose　LOW

豊島区を「空き家のまち」から
「空き家ストック活用で循環するまち」へ

豊島区は東京 23 区内において空き家率が最も高く、約 30% が木造である。現在、利活用の目処が立っていない空き家も多い。そこで、「空き家の解体材」と、「池袋の表現の多様性」と結びつけ「古材が人の活動によって変換され再流出する建築」を提案する。再流通材は木密地域の人の温かさに小さな賑わいを与え、新たな文化をつくる。

02 target + system+cycle　HIGH

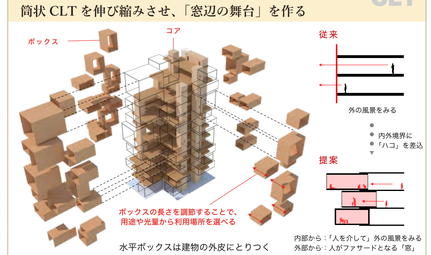
新たな価値を付加する表現者を抱える池袋　「表現者の変換による古材の再流通＋植樹林の利用＝池袋に木材を溢れさせる」



池袋は豊かな立地と柔軟な制度により、伝統工芸士・アーティスト・建築家・デザイナーといった表現者が多く、交通アクセスも良いため最高の表現舞台である。そこで「表現」を軸とし、材料の調達から作品の制作、さらには流通までの「過程」が見える建築を計画する。建築内では木材に価値が付加され、まちに再流通する。この建築は「まちの循環装置」であり、建物の表情は人々の豊かな活動で生み出される。

03 architectural composition　CLT

筒状 CLT を伸び縮みさせ、「窓辺の舞台」を作る

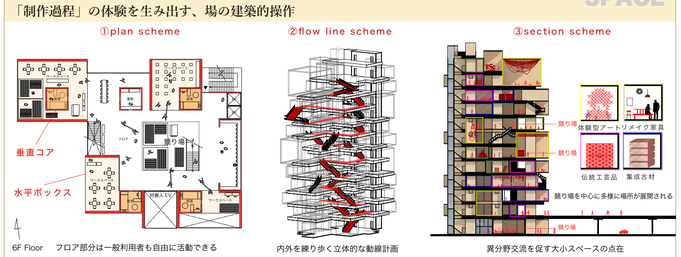


水平ボックスは建物の外皮にとりつく

人の活動を象徴するために CLT を筒状で用い、フレーミングするようにまちに飛び出させる。またその間の長さ・大きさを調整することで場所に変化をつけた。これにより、従来の外の景色を見るだけの内部から、人を介して風景を取り込む内部となり、窓辺（内外境界）に動きのある状態をつくることができる。

04 plan+flow line+section　SPACE

「制作過程」の体験を生み出す、場の建築的操作



フロア部分は一般利用者も自由に活動できる

内外を練り歩く立体的な動線計画

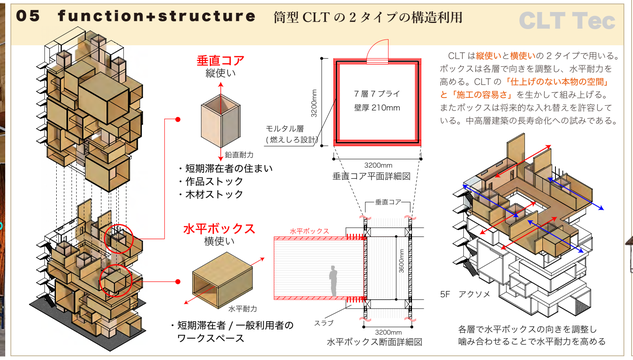
異分野交流を促す大小スペースの点在

コアは、表現者の短期居室とした。その周りにワークスペースを設けることで、「制作過程」も作品になる場となる。共に考え・つくり、新たな発想の場になることを期待する。

ボックスの隙間に動線を設け、ボイドとボックス間を行き来するよう計画することで、複雑な池袋の路地を立体的に再現した。

ワークスペースは競り場のある階に合わせて点在させることで、表現者同士の異分野交流が起こることを期待した。悩みや葛藤を共有し、乗り越えるきっかけが生まれてほしい。

05 function+structure　筒型 CLT の 2 タイプの構造利用　CLT Tec



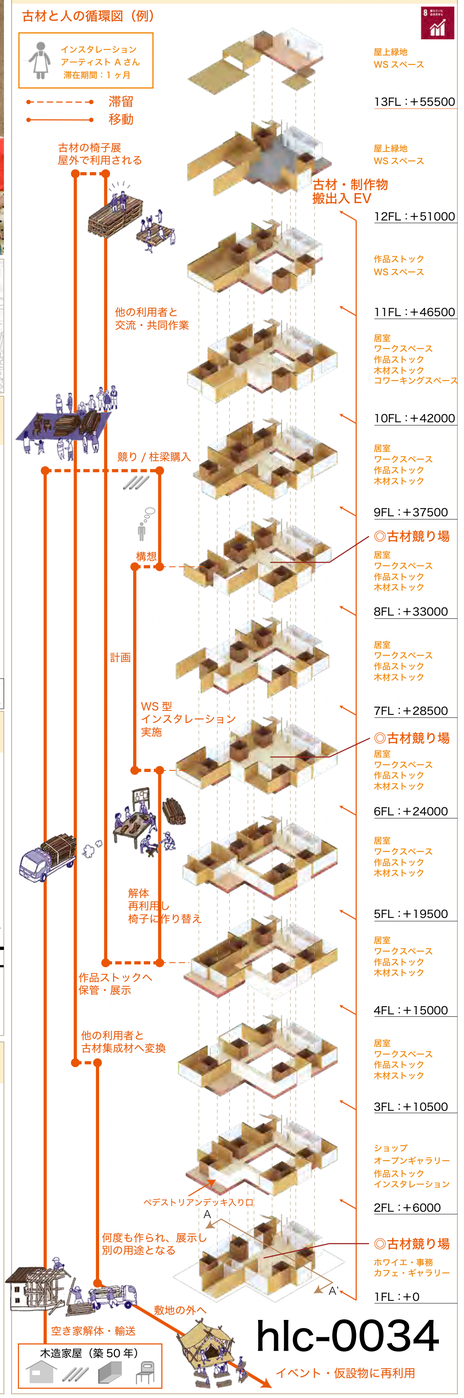
CLT は縦使いと横使いの 2 タイプで用いる。ボックスは各層で向きを調整し、水平耐力を高める。CLT の「仕上げのない木物の空間」と「施工の容易さ」を生かして組み上げる。またボックスは将来的な入れ替えを許容している。中高層建築の長寿命化への試みである。

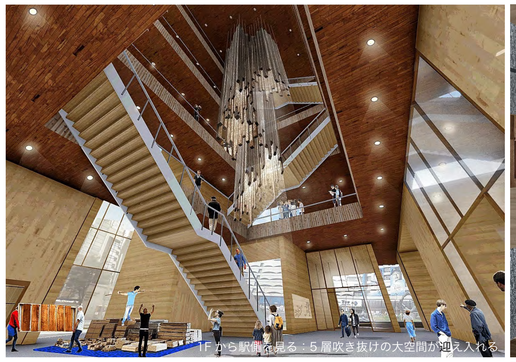
各層で水平ボックスの向きを調整し噛み合わせることで水平耐力を高める

06 cycle story+program　STOCK+FLOW

古材搬入→表現者による変換→再流出の流れと過程の体験

古材と人の循環図（例）





1F から駅側を見る：5 層吹き抜けの大空間が迎え入れる

ボックスは景色を背景とし、人をフレーミングするため、「窓辺の舞台」となる

ボックスは伸び縮みしたり、ずれたりすることで利用者に場所選択の余地となる

ボックスの隙間の階段が立体的な上下体験を生み出す

ここは表現者と利用者が共に考え、共につくる体験型アートストックである

hlc-0034